

研究発表もうしこみフォーム

氏名：韓春迎

氏名のローマ字表記：HAN CHUNYING

所属：内蒙古大学蒙古学学院（神戸市外国語大学大学院特別研究学生）

専門分野：現代モンゴル語及びその方言

発表のタイトル：オイラト方言・ウリャンハイ下位方言の複数形について

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表では、中国新疆ウイグル自治区イリ・カザフ自治州の最北部に位置するアルタイ地区のウリャンハイモンゴル族によって話されるモンゴル語（ウリャンハイ下位方言）における名詞と代名詞の複数形について、蒙古文語及び他のオイラト方言と対照しつつ検討する。

まず、ウリャンハイモンゴル族とそのモンゴル語の概況、及び先行研究などについて紹介する。本発表で用いるデータは、主に2016年7月16日～8月3日、2017年1月24日～2月23日、2017年8月24日～9月23日における現地調査で得られたものである。

次に、ウリャンハイ下位方言における名詞の複数形について記述する。ウリャンハイ下位方言の名詞複数語尾は-med, -ner, -ʃʊd/-ʃed, -u:d~-ʊd, -d, -sの6種であり、トルグート、ホシュート、チャハルといった他のオイラト方言に比べると音声的な単純化が見られるとともに、それぞれが接尾しうる名詞のカテゴリーも多少異なる。

さらに、ウリャンハイ下位方言における代名詞の複数形について記述する。代名詞のうち人称代名詞、再帰代名詞、指示代名詞には数の範疇があるが、ウリャンハイ下位方言の再帰代名詞には bi:ʏen, bi:ʝen という単数形、及び bi:sen という複数形がある。これらは他のオイラト方言や蒙古文語と全く様相を異にしており、中世蒙古語の beye-yĕn, beyes-iyĕn との関係を示唆するものである。

最後に、ウリャンハイ下位方言の名詞と代名詞の複数形が、蒙古文語及び他のオイラト方言とどのような対応関係にあるかをまとめる。全体としてみれば、ウリャンハイ下位方言の複数形は音声的に単純化されつつある状態にあり、その原因としては周辺言葉との接触の影響が考えられる。ウリャンハイモンゴル語が中国領内のオイラト方言において独立した下位方言と言えるか否かについては、体系全体を見渡した上での慎重な検討が必要となる。